

Art History Section

What is Contemporary Art?: Roger McDonald, AIT / Keisuke Ozawa, AIT
Post-war Art History in Japan: Fumihiko Sumitomo, AIT
On the History of Photography: Atsushi Sugita, Art Critic / Professor, Joshibi University of Art and Design / Director, art & river bank
Painting in the 20th Century and Beyond: Roger McDonald, AIT / Keisuke Ozawa, AIT
Installation Arts: Roger McDonald, AIT
Video Art and Visual Culture: Keisuke Ozawa, AIT

Art and Public Section

On Publicness: Roger McDonald, AIT / Keisuke Ozawa, AIT
Thinking about Alternative Ways to Do Art: Roger McDonald, AIT / Keisuke Ozawa, AIT
Art and Community: Mizuki Endo, Director, Arcus Project / Freelance Curator
Narrative Making in Exhibitions: Roger McDonald, AIT / Keisuke Ozawa, AIT
Public Programme Workshop at MOT: Yasunori Goh, Educator, MOT
Artist and Community Making: Masato Nakamura, Artist

Artist

Magazine

Free Blocks - Seminars Open to MAD Core Courses

Text Reading

Douglas Crimp, "On the Museum's Ruins": Roger McDonald, AIT / Keisuke Ozawa, AIT
Okwui Enwezor "Politics of Spectacle": Roger McDonald, AIT / Keisuke Ozawa, AIT
Gao Shiming "Observations and Presentiments on "After Post - Colonialism": Roger McDonald, AIT / Keisuke Ozawa, AIT
Nicolas Bourriaud "Post - Production": Roger McDonald, AIT / Keisuke Ozawa, AIT

Art and Work Experience

Art World and Work - Gallery & Museum: Fumiko Nagayoshi, SCAI THE BATHHOUSE / Mihoko Nishikawa, Assistant Curator, MOT
Art World and Work - Publishing: Tomoko Yanashita, ARTIT Editorial Staff / Kana Miyazaki, BT Editorial Staff
Overseas Curation Study: Naoko Horiuchi, AIT
On Producing Art: Rika Fujiki, Representative, MUJIN-TO Production
On Commercial Galleries and the Art Market: Takayuki Ishii, Representative, Taka Ishii Gallery
On Being an Artist: Kohei Nawa, Artist
Artist in Residence Program Now and Future: Yuko Shiomi, AIT

Global Studies

Post-Colonialism and Representation: Keisuke Ozawa, AIT
Society of Spectacle and The Production of Memory: Keisuke Ozawa, AIT
Ways to Connect the Local and the Global: Fram Kitagawa, President, Art Front Gallery / General Director, Chichu Art Museum / Director, Niigata City Art Museum
On Creole and Contemporary Art: Keisuke Ozawa, AIT
Moving Image and Presentation: Fumihiko Sumitomo, AIT

Beauty: Origin and Politics

Beauty and the Sublime: Noriyuki Tsuji, Freelance Curator, Translator
Unformed and Aesthetic: Kenichiro Ezawa, Lecturer, Rikkyo University
Aesthetics as Dispositive: Noriyuki Tsuji, Freelance Curator, Translator

Publicness and Art

Everyday Practices and Curating: Roger McDonald, AIT
Cultural Policy in Japan and Art: Mitsuhiro Yoshimoto, NLI Research Institute
Reading Urban Space through Architecture: Akira Suzuki, Architect / Professor, Kobe Design University
Art Museum and Local Community: Yuji Akiyama, Director, 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa
Gordon Matta-Clark, Anti-Architecture, Entropy: Roger McDonald, AIT
Workshop for Tactical Art Practice - Framing Codes of "Public": Hiroharu Mori, Artist
Museum Is Over, Return of The Body: Roger McDonald, AIT
On Public Sphere and Art Practice: Yoshitaka Mouri, Associate Professor, Tokyo University of The Arts

Practical Skills

Photo Documentation Workshop: Keizo Kioku, Photographer
Design and Communication: Masayoshi Kodaira, Art Director
Thinking About Fund Raising: Yuko Shiomi, AIT / Keisuke Ozawa, AIT
Criticism and Review Writing: Keisuke Ozawa, AIT
Art and International Exchange: Aki Hoashi, Art Coordinator

Special Lectures

Art Market and Art Industry: Misa Shin, President, Misa Shin & Co. / Executive Director, Art Fair Tokyo
Curatorial Skill Brush Up: Mizuki Endo, Director, Arcus Project / Freelance Curator
Art - Environment - Imagination: Takashi Serizawa, Art Director
Multitude and Art - Only Art Can Change Society: Jun Hirose, Lecturer, Ryukoku University
A to Z of Contemporary Art: Roger McDonald, AIT / Keisuke Ozawa, AIT
History of Painting - From Modern to Contemporary: Kenjiro Hosaka, Assistant Curator, The National Museum of Modern Art, Tokyo
Archaic Nostalgia, the Return of the Body and Expansion in Art Now: Roger McDonald, AIT

MAKING

ART

DIFFERENT

NTSCH

OOLOOEF

COONTEM

PORRARY

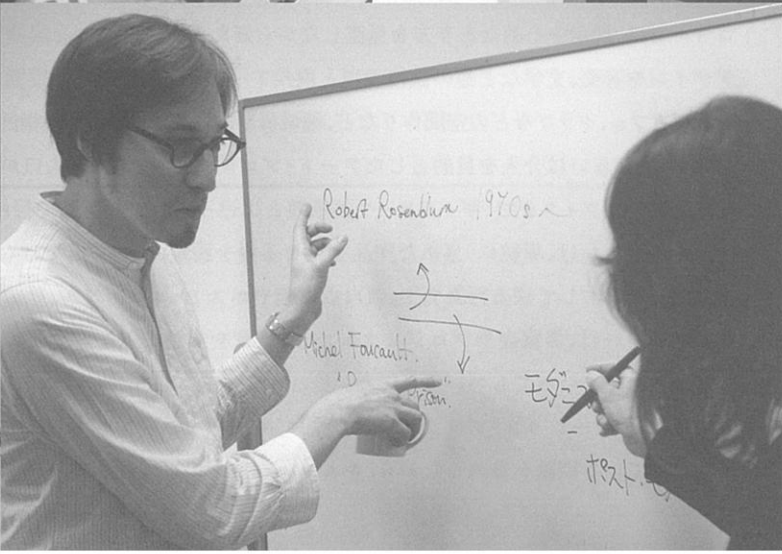
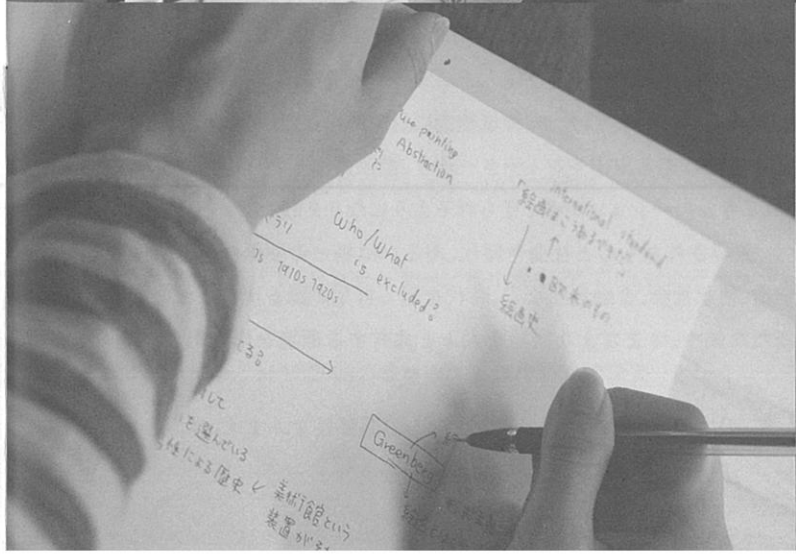
ART

Curation Practice

History of Curating: Roger McDonald, AIT
Mapping Curation: Roger McDonald, AIT / Keisuke Ozawa, AIT
On Being a Curator: Hiroshi Minamishima, Professor, Joshibi University of Art and Design
Pluralized Curation: Shihoko Iida, Curator, Tokyo Opera City Art Gallery
Organizing and Managing an Art Exhibition: Yuko Shiomi, AIT / Keisuke Ozawa, AIT
Social Space and Curating: Keisuke Ozawa, AIT
On Independent Curating: Kyongfa Che, Freelance Curator
New Art Institutions and Transforming Curating: Eriko Osaka, Artistic Director, Mori Art Museum
Curating for Regions: Keisuke Ozawa, AIT
International Exhibitions Today?: Roger McDonald, AIT
Knowledge Production as Exhibition: Roger McDonald, AIT / Keisuke Ozawa, AIT

ORGANIZED BY
ARTS INITIATIVE TOKYO





MADは、現代アートの学校です。

「見て、感じる」から一歩先へ。MADは、現代アートの「なぜ？」を考えます。

MADとは

MAD(Making Art Different＝アートを変えよう、違った角度で見よう)は、NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]が2001年に開講した、現代アートの教育プログラムです。2009年度のMADは、国内外の美術制度の変化やそれに関する議論を取り上げるほか、市民の手によって立ち上がる草の根的なアートの運動にも注目します。キュレーターやギャラリスト、アーティスト、評論家などの専門家を迎え、国内だけでなく、広くアジア諸国・地域あるいは欧米で取り上げられている現代アートの現象や議論を、美術史や社会学、哲学思想をたよりに、より多角的に、深く、体系的に捉えて考察します。

5つの基本コースは、現代アートを「見る」から「考える」、そして「活かす」まで、さまざまな知的好奇心に応えるプログラムです。受講生は各コースの必修レクチャーのほかに、「フリー・ブロック」とよばれる選択講座から指定された数の講座を受講することができます。レクチャーは、すべてAITルーム(代官山)で行われます。

これらの基本コースのほか、「集中講座」を開講しています。

キュレーション

時代や文化とともに変容する「キュレーション」の問題と可能性を考えます。

「キュレーション」という言葉を知っていますか？その語源は、一説にラテン語で「保護する」という意味の「キュラーレ」に由来すると考えられています。西洋世界において美術館という制度が確立した19世紀には、美術品などを保護することと、それに関連づけられる収集・分類・公開などの作業の総称として「キュレーション」と呼ばれるようになりました。

20世紀後半になると、社会の変遷とともにキュレーションについての考え方も変化し、それまでの分類や系譜による研究・展示以外の方法を追求するものが見られるようになりました。1960年代のハラルド・ゼーマン(スイス)による「態度が形になるとき」展は、今でいうアーティスト・イン・レジデンスと展覧会を組み合わせた実験的なもので、それまでの展覧会のあり方に疑問を投げかける一方で、キュレーションの可能性を広げたといわれています。

今日では、90年代に世界規模で行われた経済の自由化政策と深く関わりながら、キュレーションは多様化する傾向にあるといえます。経済活動と足並みをそろえて成長し続けたアートマーケットでは、アートフェアにキュレーターが参加するというこれまでにないプログラムが始まりました。また、国際展のなかには、いまやマーケットの動きと近接しながら構成や内容が決定されているものもあります。一般的に、アートの商品的な性質を前景化する動きが加速したといってもいいかもしれません。一方で、そうした社会のあり方に抑圧された感情や出来事などを取り上げ、再検証するキュレーションも増え、権力に支配される文化や市民の表象とそこに見出される新たな知の方法がさまざまな形で探究されています。また、経済の自由化は、美術館制度の内外に影響を与えています。民営化のなかで経済的な自立をせまられる美術館ですが、特にヨーロッパでは、展示中心的なあり方を見直しながら新たなプログラムを展開する動き、「新美術館主義」という潮流を生み出しています。そこでは、デザインや音楽、文学など他の芸術表現と現代アートを組み合わせた展覧会やイベントの実施、あるいは人々が気軽に立ち寄ることのできる図書館やカフェ、クラブなどの空間作りなど、領域横断的なプログラムが積極的に試みられています。片や、地域社会に目を向けると、コミュニティ形成・再生あるいは介入を目的としたアート・プロジェクトとして、人口が減少傾向にある里山やシャッター通り、温泉街などから、都市部における廃校やオフィスまで、ギャラリーや美術館とは違った特殊な空間で行われるキュレーションが多く見られるようになりました。

キュレーションは、単純に「集めた作品を見せる場を設定する」ことではなく、表現されたものと社会や時代、あるいは場との関係性を、さまざまな方法をとおして探る行為です。新自由主義やポスト・コロニアル、地域創造、格差社会、金融危機など、時代を彩る言葉が踊る現代において、キュレーターは、展覧会やプロジェクト、また文章や対話などをとおして新たな知や、さまざまな議論の人々と共有する環境を作り出さなければならぬといってもいいでしょう。

MADのキュレーション・プラクティス(実践)、キュレーション・ベーシック(基礎)では、現代アートと社会状況との関係性をふまえ、世界各地で起こっている議論を参照しながら、キュレーションの可能性を探ります。

目次

キュレーション・プラクティス(実践) 2009年4月開講 12ヶ月コース

今日におけるキュレーション(展覧会の企画・制作)の可能性と問題点について、美術史や社会学、哲学思想などをたよりに、広く議論・考察する。その上で、グループごとに展覧会や調査研究の企画立案を行い、チューターのアドバイスを受けながら実現することを目的とする。活動資金が支給され、テーマや形式の設定、アーティストの選択から予算組み、運営まで、キュレーションに関する必要不可欠な作業を総合的に経験する。

キュレーション・ベーシック(基礎) 2009年4月開講 12ヶ月コース

キュレーションの理論や歴史などの基礎を学び、社会学や哲学思想などをたよりに、キュレーションと時代あるいは社会との関係性について、個人あるいはグループで研究しコース内で発表する。受講生は、時事性のあるテーマや美術史、アーティストに対する新しい解釈、また、文学や建築、社会学など他の学問分野と現代アートとの関係性などまで、自由に研究テーマを設定することができる。

アート+コミュニケーション 2009年4月「美術史編」、9月「公共と美術編」開講 各4ヶ月コース

前期の「美術史編」では、絵画や写真、映像などのテーマ別に、20世紀の美術史における基礎知識を身につけ、後期の「公共と美術編」では、日本国内における美術を取り巻く状況と実践を考察し、知識としての美術と生活が行われている社会とをつなぐ可能性を探る。また、東京都現代美術館においてワークショップも行い、アートの現場を体験する。「美術史編」のみ、「公共と美術編」のみ、あるいは両方の3パターンの受講可。

アーティスト 2009年4月、9月、2010年1月開講 各3ヶ月コース

作品を制作している人を対象とするコース。「アート界の仕組み」や「現代の視覚文化」などについてのレクチャーと、キュレーターや美術評論家をゲストに迎えて行う模擬プレゼンテーションをとおし、制作から発表までの活動を支えるために最低限必要とされる知識や理論、またプレゼンテーション・スキルを学ぶ。

マガジン 2009年4月、9月、2010年1月開講 各3ヶ月コース

海外のアート雑誌やウェブの英文記事を読み、コース・ディレクターや受講生がお互いの考えを出し合い、話し合うことで、世界各地で展開する現代アートを読み解く。アート・マーケットの情報や、現代アートを巡る新たな議論や視点に関する記事で、国内の美術雑誌ではなかなか触れることのできないアートの一面に迫る。
講読する雑誌の例:Art Asia Pacific(アメリカ)／Art Forum(アメリカ)／frieze(イギリス)／Contemporary(イギリス)など

フリー・ブロック

MADの5つのコースに共通した選択講座。現代アートを理論的・実践的に考えてゆく上で重要となる専門的な研究やスキルを網羅的に取り上げる。受講生は、コースと期間に応じて科目を選択し、受講することができる。(フリー・ブロックのみの受講は不可)

集中講座

短期間に特定のテーマについて専門的な知識を習得したい方を対象とするコース。2009年度は、7つのテーマについて開講される。

MAD 2009 概略図 5つのコースとフリー・ブロックが一目で見渡せる全体図

スタッフ MAD2009を運営しているAITのスタッフ紹介

MAD2009 ゲスト・レクチャー／集中講座 ゲスト・レクチャー

コース概要 MAD2009の各コースと集中講座の概要

修了生の声 MADを修了した学生・社会人の今を紹介

「キュレーション・プラクティス(実践)」は、2009年4月から2010年3月にかけて開講され、キュレーションの歴史や理論、美術史や社会学、哲学思想などをふまえて、グループでの展覧会企画や調査研究の実現を目的とするコースです。

このコースは主に、将来キュレーターとして現代アートの分野に専門的に携わりたい学生や社会人、さまざまな空間や規模で展覧会作りの現場に具体的に組み組もうとしている方、海外留学を考えている方、キュレーションに興味のあるアーティストやアート・マネージャーなどを対象としています。

コースの構成
必修レクチャー:11回
フリー・ブロック:25回
チュートリアル(展覧会企画制作のためのワークショップ):10回

キュレーション・プラクティス(実践)・キュレーション・ベーシック(基礎) 共通 必修レクチャー

○キュレーションの歴史 ロジャー・マクドナルド(AIT)

16世紀ヨーロッパの「好奇のキャビネット」に端を発し、近代国家の形成とともに誕生した美術館とそれに対抗する前衛運動の実践、さらに従来の美術館の機能にとらわれない新美術館主義の動きまで、キュレーションの500年を駆け抜けます。

○キュレーションのマッピング ロジャー・マクドナルド(AIT)／小澤慶介(AIT)

「自由」という価値が問われる現代のグローバル社会。経済の自由を謳歌し市場に寄り添うデパートのようなキュレーション、そして抑圧される市民の自由を救い出す資料性の高いキュレーション。両者のふり幅をさまざまな具体例をとおして考えます。

○キュレーターとは？ 南畠宏(女子美術大学 教授／第53回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館コミッショナー)

キュレーターの役割、あるいは求められる能力とはどのようなものなのでしょうか。時代の移り変わりや文化の違いで表現や価値体系が変わるなか、アーティストの作品や活動を評価しながら社会に問いかけてゆく職能について具体的に解説します。

○美術館と国際展をめぐるキュレーション 飯田志保子(東京オペラシティアートギャラリー キュレーター)

東京オペラシティアートギャラリー内外のいくつかのプロジェクトをとおしてキュレーションを相対的に眺め、美術館におけるキュレーションのあり方や、国際交流の可能性あるいは問題点について考えます。

○展覧会の企画立案と管理進行について 塩見有子(AIT)／小澤慶介(AIT)

興味深いアーティストに巡りあったり、アートをとおして深めてみたいテーマが見つかったら、自分でキュレーションをしてみましょう。企画の立て方や制作進行の方法、また資金の調達まで、具体例を挙げながら解説します。

○社会空間とキュレーション 小澤慶介(AIT)

個人宅から、ギャラリー、美術館、国際展あるいはウェブまで、キュレーションは、空間という概念と切り離して考えることができません。哲学思想をたよりに、社会空間の概念やそれに関する具体的実践から、キュレーションと社会空間の関係を探ります。

○インディペンデントなキュレーション 崔敬華(フリーランス・キュレーター)

ギャラリーや美術館などで形成される美術制度と関係を図りながら、自らの関心を追求するインディペンデントなキュレーション。会場や資金などさまざまな条件について交渉し、自分の考えや注目するアーティストの作品を展覧会にしてゆく方法について、具体例をとおして考えます。

○新しい美術館、変化するキュレーション 逢坂恵理子(森美術館 アーティスティック・ディレクター)

民営化の流れのなか指定管理者制度が導入され、美術館のあり方が再検討される現在において、公立美術館はどのように変わっていくことができるのか。水戸芸術館現代美術ギャラリーや横浜美術館、そして森美術館などの異なる美術館を比較しながら、公立・私立美術館での経験をとおして美術館とキュレーションのこれからを探ります。

○地域とキュレーションの関係 小澤慶介(AIT)

「地方の時代」といわれた70年代の、負の遺産を抱え込んでいるように見える現在の地方都市。近年、潜在的な文化力をアートによって再発見し、そのような地域の活性化を図る試みが多く見られるようになっていきます。多様である地域とアートの関係性を考えます。

○国際展の現在 ロジャー・マクドナルド(AIT)

アートはもちろん、言語や文化などさまざまな要素が混ざり合う空間である国際展。古い歴史を持つヴェネツィア・ビエンナーレから90年代に生まれたアジア太平洋地域のビエンナーレを眺めることで、国際展がアート界に果たす機能とその変容を考えます。

○知の生産と展覧会 ロジャー・マクドナルド(AIT)／小澤慶介(AIT)

誰が何を誰にどのように伝えているのか、またそれによりどのような集合知を生み出しているのかという展覧会の政治性について考えます。短い期間に多くの人々に対して、ある価値を提示するとともに誤解をも与えかねない文化装置としての美術の場、展覧会を眺めます。

フリー・ブロック:必修レクチャーで得た知識を補完し、さらに受講生各自の関心やグループでのキュレーションの方向性を見極めるための専門的な講座です。キュレーション・プラクティスの受講生は25回のフリー・ブロックに参加することができます。テーマはP10、11を、スケジュールはP14・P19をご覧ください。

「キュレーション・ベーシック(基礎)」は、2009年4月から2010年3月にかけて開講されるコースで、美術史や美術理論、社会学、哲学思想などを参照に、今日の現代アートのキュレーションを支えている考えや状況を理解します。並行して、受講生は、個人あるいはグループで、過去現在を問わずアーティストや展覧会、アートの運動、または文学や建築、社会学など他の学問分野と現代アートとの関係性などからテーマを自由に選び、調査研究の成果をプレゼンテーションするコースです。

キュレーションと社会の関係について時間をかけて考えてみたい方、あるいは海外留学を考えている方、キュレーションに関心のある社会人、学生、アーティストやアート・マネージャーなどを対象としています。

コースの構成
必修レクチャー:11回
フリー・ブロック:20回
プレゼンテーション:3回

キュレーション・プラクティス(実践)・キュレーション・ベーシック(基礎) 共通 必修レクチャー

○キュレーションの歴史 ロジャー・マクドナルド(AIT)

16世紀ヨーロッパの「好奇のキャビネット」に端を発し、近代国家の形成とともに誕生した美術館とそれに対抗する前衛運動の実践、さらに従来の美術館の機能にとらわれない新美術館主義の動きまで、キュレーションの500年を駆け抜けます。

○キュレーションのマッピング ロジャー・マクドナルド(AIT)／小澤慶介(AIT)

「自由」という価値が問われる現代のグローバル社会。経済の自由を謳歌し市場に寄り添うデパートのようなキュレーション、そして抑圧される市民の自由を救い出す資料性の高いキュレーション。両者のふり幅をさまざまな具体例をとおして考えます。

○キュレーターとは？ 南畠宏(女子美術大学 教授／第53回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館コミッショナー)

キュレーターの役割、あるいは求められる能力とはどのようなものなのでしょうか。時代の移り変わりや文化の違いで表現や価値体系が変わるなか、アーティストの作品や活動を評価しながら社会に問いかけてゆく職能について具体的に解説します。

○美術館と国際展をめぐるキュレーション 飯田志保子(東京オペラシティアートギャラリー キュレーター)

東京オペラシティアートギャラリー内外のいくつかのプロジェクトをとおしてキュレーションを相対的に眺め、美術館におけるキュレーションのあり方や、国際交流の可能性あるいは問題点について考えます。

○展覧会の企画立案と管理進行について 塩見有子(AIT)／小澤慶介(AIT)

興味深いアーティストに巡りあったり、アートをとおして深めてみたいテーマが見つかったら、自分でキュレーションをしてみましょう。企画の立て方や制作進行の方法、また資金の調達まで、具体例を挙げながら解説します。

○社会空間とキュレーション 小澤慶介(AIT)

個人宅から、ギャラリー、美術館、国際展あるいはウェブまで、キュレーションは、空間という概念と切り離して考えることができません。哲学思想をたよりに、社会空間の概念やそれに関する具体的実践から、キュレーションと社会空間の関係を探ります。

○インディペンデントなキュレーション 崔敬華(フリーランス・キュレーター)

ギャラリーや美術館などで形成される美術制度と関係を図りながら、自らの関心を追求するインディペンデントなキュレーション。会場や資金などさまざまな条件について交渉し、自分の考えや注目するアーティストの作品を展覧会にしてゆく方法について、具体例をとおして考えます。

○新しい美術館、変化するキュレーション 逢坂恵理子(森美術館 アーティスティック・ディレクター)

民営化の流れのなか指定管理者制度が導入され、美術館のあり方が再検討される現在において、公立美術館はどのように変わっていくことができるのか。水戸芸術館現代美術ギャラリーや横浜美術館、そして森美術館などの異なる美術館を比較しながら、公立・私立美術館での経験をとおして美術館とキュレーションのこれからを探ります。

○地域とキュレーションの関係 小澤慶介(AIT)

「地方の時代」といわれた70年代の、負の遺産を抱え込んでいるように見える現在の地方都市。近年、潜在的な文化力をアートによって再発見し、そのような地域の活性化を図る試みが多く見られるようになっていきます。多様である地域とアートの関係性を考えます。

○国際展の現在 ロジャー・マクドナルド(AIT)

アートはもちろん、言語や文化などさまざまな要素が混ざり合う空間である国際展。古い歴史を持つヴェネツィア・ビエンナーレから90年代に生まれたアジア太平洋地域のビエンナーレを眺めることで、国際展がアート界に果たす機能とその変容を考えます。

○知の生産と展覧会 ロジャー・マクドナルド(AIT)／小澤慶介(AIT)

誰が何を誰にどのように伝えているのか、またそれによりどのような集合知を生み出しているのかという展覧会の政治性について考えます。短い期間に多くの人々に対して、ある価値を提示するとともに誤解をも与えかねない文化装置としての美術の場、展覧会を眺めます。

フリー・ブロック:必修レクチャーで得た知識を補完し、さらに受講生各自の関心を深め、具体的な研究テーマを探るための専門的な講座です。キュレーション・ベーシックの受講生は20回のフリー・ブロックに参加することができます。テーマはP10、P11を、スケジュールはP14・P19をご覧ください。

「アート＋コミュニケーション」は、2009年4月に美術史編、9月に公共と美術編、それぞれ4ヶ月のコースが開講されます。前期の「美術史編」では、「現代アートの現代性」や「絵画」、「写真と映像」などのテーマにより、20世紀から21世紀にかけての現代アートの基礎知識を習得します。また、後期の「公共と美術編」では、「公共性」や「地域」あるいは「教育」をキーワードに現代アートと社会のつながりについて具体的に考えることを目的としています。

美術史編、公共と美術編では必修レクチャーの内容が異なります。また前期と後期をとおして受講することにより、現代アートと社会の関わりがより体系的に習得できるようにプログラムされています。

このコースは主に、美術と社会をつなぐエデュケーターとしてアートに携わりたい学生や社会人、現代アートの歴史を学びたい方、自立的なアート活動などに関心がある方、アーティストやアート・マネージャーなどを対象としています。

コースの構成

[前期]美術史編／[後期]公共と美術編

必修レクチャー：各6回

フリー・ブロック：各10回

アート＋コミュニケーション 必修レクチャー＋ワークショップ

[前期]美術史編

○現代アートとは何か？ ロジャー・マクドナルド(AIT)／小澤慶介(AIT)

現代アートの「現代」が意味することについて、20世紀の美術史において問題を投げかけた作品や、モダニズムーポストモダニズムなどの歴史認識方法を頼りに読み解き、一般に難解といわれる現代アートの性質について考え始めます。

○日本の戦後美術史 住友文彦(AIT)

一般的に正史がないといわれる戦後日本美術。美術制度の未整備と表現活動の多様さによるそうした状況を、戦後直後の「夜の会」から、「実験工房」、「読売アンデパンダン」展を経て大阪万博へと至る過程をとおして考えながら、現在の状況との関係性を考えます。

○写真と映像の歴史 杉田敦(美術批評家／女子美術大学 教授／オルタナティブ・スペース art & river bank ディレクター)

1920年代から30年代にかけてフランスや英国で発明された写真術、また19世紀末にアメリカとフランスで発明された映像。流れ行く現実の「瞬間」あるいは「持続」を捉えるという人々の夢を実現した複製技術の歴史をとおして、それらが可能にした表現と芸術との関係を考えます。

○20世紀の絵画 ロジャー・マクドナルド(AIT)／小澤慶介(AIT)

20世紀の絵画を考えるために、19世紀のフランス・ロマン主義や写実主義から話を始めます。19世紀の写真や映像という複製技術時代の到来をとおして絵画がたどった軌跡を、ポール・セザンヌ、ジャクソン・ポロック、ゲルハルト・リヒターなどを参照しながら眺めます。

○インスタレーション・アート ロジャー・マクドナルド(AIT)

ヨーロッパルネッサンス期の「好奇のキャビネット」や「グロッタ」から、20世紀前半のダダやシュルレアリスム、構成主義のアーティストたちによる展示実践、また1990年代の関係性の美学で議論される作品などまで、空間を作品化するインスタレーションについて考えます。

○ビデオアートと視覚文化 小澤慶介(AIT)

1960年代にアートの表現として成立したビデオアートの表現を、20世紀をとおして確立した映画やテレビネットワークなどの巨大メディア産業が生み出す新たな世界認識との関係で捉え、現代のスペクタクル化する社会における映像作品の可能性を考えます。

[後期]公共と美術編

○公共とは何か？ ロジャー・マクドナルド(AIT)／小澤慶介(AIT)

公共という概念を、ユルゲン・ハーバーマスやハンナ・アーレントなどの思考をとおして読み解きながら、公共空間へ一時的な介入を図るアート作品やプロジェクトなどを紹介し、社会の空間とアートの関係性を考え、現在の議論へと導きます。

○オルタナティブという方法を考える ロジャー・マクドナルド(AIT)／小澤慶介(AIT)

確立した美術制度において、モノやコトをアートと定義づけること。一方でアートを定義してしまうことによって表現の自由度を限定すること。それらの間で議論されるアートの性質に注目しながら、ギャラリーや美術館など、いわゆるアートの場以外でアートを実践する動機や方法を考察します。

○コミュニティの潜在力とアート 遠藤水城(アーカス・プロジェクト ディレクター)

人口や面積の規模、産業、インフラなどにより多様化する地域社会。茨城県守谷市で10年以上続くアーティスト・イン・レジデンス事業「アーカス・プロジェクト」をとおして、郊外型の地域社会と現代アートの関係について考え、その未来について議論します。

○展覧会と物語づくり ロジャー・マクドナルド(AIT)／小澤慶介(AIT)

作品と作品を関連付けてテーマを描き出す展覧会は、物語を書く行為にたとえられます。物語の書き手と受け手の関係性、そして物語の質に注目しながら、作品をとおしてある考えを多くの人々に伝えることについて考えます。

○パブリック・プログラム ワークショップ 東京都現代美術館 郷泰典(東京都現代美術館 教育普及係 学芸員)

美術史などの知識の詰め込みすぎは、もしかしたら作品を真剣に見ることから意識を逸らせているかもしれません。このワークショップでは、東京都現代美術館の常設展示作品を鑑賞しながら、「見る人の見方を見る」トレーニングを行います。

○アーティストが可能にするコミュニティ作り 中村政人(美術家)

高齢化や過疎化が進む地方都市や、均質化や効率化が進む都市部の地域社会。「ヒミング」(富山県)や「ゼロダテ」(秋田県)をとおして、造形技術や心を豊かにするアイデア豊富なアーティストが、地域社会と関係を図りながらそれを変容させてゆくことの意義について考えます。

フリー・ブロック：必修レクチャーで得た知識を補完し、さらに受講生各自の関心を深めるための専門的な講座です。アート＋コミュニケーションの受講生は、「美術史編」、「公共と美術編」それぞれ10回ずつ選択し参加することができます。前期・後期をとおして受講する方は、全部で20回のフリー・ブロックに参加できます。テーマはP10、P11を、スケジュールはP14-P19をご覧ください。「美術史編」の受講生は、4月から7月までに開講されるフリー・ブロックを選択できます。「公共と美術編」の受講生は、9月から12月までに開講されるフリー・ブロックを選択できます。※補講、フリー・ブロックの交換などはできません。

作品やプロジェクトの制作を行っているアーティストを対象に、作品と社会とを結ぶための知識やスキルを、合わせて6回のレクチャーやプレゼンテーションによって学ぶ3ヶ月のコースで、2009年4月、9月、2010年1月に開講されます。

美術は、アーティストによってのみ生み出されるものではありません。それは、アーティストをはじめ、ギャラリスト、キュレーター、評論家など、アート界に関するさまざまな職能、あるいは企業や財団、また鑑賞者が複雑に織り成す関係性によって生み出されるといってもいいでしょう。作品やプロジェクトを客観的に眺めることで、周囲の人々と自分の関心を共有するためのコミュニケーションを探る一連のプロセスを、キュレーターやアーティスト、受講生たちとの話し合いをとおして組み立てていきます。

このコースは主に、現代アートを動かしているアート界について知識を得たい、自分の作品を客観的に見つめ直す機会を持ちたい、作品と社会の関係性を探りたい、海外の美術系大学への留学を考えている方を対象としています。

コースの構成

必修クラス：6回

フリー・ブロック：3回

必修クラス

○アート界のマッピング：社会とともに変化してゆくアート界の構造と人の動きについて概観した上で、受講生は、議論をとおして各自の戦略を考えます。オルタナティブな活動やコマーシャル・ギャラリーでの発表など、アーティストのさまざまな活動形態について議論します。

○プレゼンテーション1：受講生各自、作品やプロジェクトについてプレゼンテーションを行います。作品概要や表現方法、コンセプト、また作品と美術史や社会との関係性について簡潔に伝えるスキルを身につけます。

○作品講評＋セミナー1、2、3：受講生の作品に関連する表現形式やテーマに関する基礎的な知識をレクチャーにより共有した後、議論をすることで、作品に対する客観的な理解を促します。3回に分けて行うことにより、受講生の活動や作品の表現形式とコンセプトの関係性について十分な時間をかけて考察します。

○プレゼンテーション2：プレゼンテーション1で得られたアドバイスを踏まえつつ、キュレーターあるいはアーティスト、美術評論家などをゲストに招き、実践さながらのプレゼンテーションを行います。また、MADキュレーションコースの受講生も参加することで、相互の交流を図ります。

過去のゲスト

最終回では、専門家に対する各自のプレゼンテーションを行います。これまでに以下の方々を招いて行われました。

飯田志保子氏(東京オペラシティアートギャラリー キュレーター)

杉田敦氏(美術批評家)

保坂健二郎氏(東京国立近代美術館 研究員)

黒岩朋子氏(森美術館 アシスタント・キュレーター)ほか

「マガジン」は、世界のアートシーンの「いま」を知り、現代アートが投げかけるさまざまな価値を考えるための3ヶ月のコースで、2009年4月、9月、2010年1月に開講されます。

社会や経済の状況によって日々刻々と変化する現代アートの世界。その動きをリアルタイムに近い感覚でとらえるウェブ、そして評論や解説とともに洞察を加えながら伝える海外のアート・マガジン。話題になった美術館やギャラリーでの展覧会、アートフェアやオークション、国際展などのレポートから、ファッションや音楽、文学、思想といった領域を横断する表現やその傾向などを取り上げ、鋭い視点で議論を展開する論文のようなものまで、さまざま記事をとおして多様化を極める現代アートの「いま」と「これから」を考えます。毎回、新鮮な情報を提供し、受講生どうしの話し合いをとおして、現在のアートを自分の力で多角的に読み解く力をつけます。

このコースは主に、リアルタイムな世界のアート、注目のアーティストや新しい美術館の動き、話題となった展覧会、アート・マーケットの動向などについて知識を得たい社会人、学生、アーティスト、コレクターを対象としています。

コースの構成

必修クラス：6回

フリー・ブロック：3回

雑誌の例

Art Asia Pacific(アメリカ)

Art Forum(アメリカ)

frieze(英国)

Contemporary(英国)

Art Monthly(英国)

Art Newspaper(英国)

Parkett(スイス)

YISHU(中国)

Art in India(インド)

artsjournal.com

artnetなど

●テキストを読む

○ダグラス・クリンプ「美術館の廃墟に」(4月16日／5月7日)：ロジャー・マクドナルド(AIT)／小澤慶介(AIT)
ミシェル・フーコーの著書「監獄の誕生」に影響を受け、1980年代中ごろにオクトーバー誌に発表された、「美術館」を権力の装置として批判的に読み解いた論考を読みます。美術館を相対的に捉えながら、現在の美術館について議論します。

○オクウィ・エンヴェゾー「スペクタクルの政治学」(10月20日／11月5日)：ロジャー・マクドナルド(AIT)／小澤慶介(AIT)
「年例報告」というタイトルでキュレーションを行なった第7回光州ビエンナーレ(2008年)に寄せた文章を読みます。東アジアにおける現代アートとそのスペクタクルな経験が、西洋中心的ではないアジアの21世紀を予感しています。

○シーミン・ガオ「『ポスト-コロナリズム以降』についての観測と胸さわぎ」(11月18日／12月3日)：ロジャー・マクドナルド(AIT)／小澤慶介(AIT)
第3回広州トリエンナーレ「ポスト-コロナリズムへの別れ」(2008年)のキュレーターによる文章です。植民地支配の経験から紡がれた歴史の捉え方や身体的経験である「ポスト-コロナリズム」の議論をとおして、アジアの今を読み解きます。

○ニコラ・ブリオー「ポスト・プロダクション」(2010年2月16日／3月11日)：ロジャー・マクドナルド(AIT)／小澤慶介(AIT)
映画業界で撮影後の作業を意味する「ポスト・プロダクション」。それは、すでにあるものに次々と要素を足していく過程に「作品」を探る行為といってもいいかもしれません。オリジナルからサンプリングへ。DJなどに見る作業方法を美術の領域で展開する可能性を考えます。

●アートと仕事

○アート界で仕事を始めるために1ーギャラリーと美術館(4月21日)：永吉文子(SCAI THE BATHHOUSE)／西川美穂子(東京都現代美術館 学芸員)
アーティストと接しながら、制作のサポートをしたり、作品の価値を社会に問いかけてゆくキュレーションの仕事に就くときの心構えは？またそこでは、どのような業務が待ち構えている？ギャラリーと美術館での違いを明らかにしながら、疑問を解いてみます。

○アート界で仕事を始めるために2ー出版(6月18日)：柳下朋子(ARTiT編集部)／宮崎香菜(BT／美術手帖 編集部)
現代アートの面白さに目覚め、それを伝える仕事についてみたいと考えている人は少なくないはず。その一つとして、専門誌という選択があります。雑誌づくりに携わるようになった経緯をはじめ、仕事の内容や必要とされる能力について紹介します。

○キュレーションを海外で学ぶ(7月2日)：堀内奈穂子(AIT)
90年代をとおして、特に欧米の大学で開設されたキュレーションを学ぶコース。海外で教えられているキュレーションとは？あるいは修了後の学生の進路は？エジンバラ大学での経験や修了後に参画したアート・プロジェクトなどをとおして解説します。

○アートをプロデュースするということ(10月7日)：藤城里香(無人島プロダクション 代表)
アーティストが作品を作りそれを発表するとき、ギャラリーでの発表だけでなく、一人でも多くの人にその表現を届けるためにより積極的な方法を考えることが大切です。その手段・場所・タイミングを作家の表現にあわせてサポートし、展開させる仕事について解説します。

○コマーシャル・ギャラリーの仕事とマーケットの仕組み(2010年1月14日)：石井孝之(タカ・イシイギャラリー 代表)
アーティストに会い、その素晴らしさを引き出し、展覧会で発表したりアートフェアに参加しながらアーティストのマーケットを作ってゆくコマーシャル・ギャラリーの仕事。目利きであると同時にプロデュース力も必要とされる職能について紹介します。

○アーティストの仕事(2010年1月28日)：名和晃平(アーティスト)
技術を磨き、自分の考えをある形にして表現するアーティスト。さまざまな専門家やコレクター、またオーディエンスなどとコミュニケーションを図りつつ、新しい表現にも実験的に取り組み、作品を発表するアーティストの仕事について紹介します。

○アーティスト・イン・レジデンスのこれから(2010年3月20日)：塩見有子(AIT)
アーティストが新しい土地に一定の期間滞在することをサポートするアーティスト・イン・レジデンス事業。作品のための調査研究や制作、地域社会との交流など、その意義は多岐にわたります。国内外の具体例をとおして、レジデンス事業の今と今後を語ります。

●グローバル・スタディーズ

○ポスト-コロナリズムと表象の問題(5月20日)：小澤慶介(AIT)
西洋に端を発する展覧会文化は、時として西洋世界が他の文化圏を一方的・排他的に表象する場ともなり得ます。現代における表象と政治性に関する議論を、ドクメンタ11(2002)や第3回広州トリエンナーレ(2008)などの国際展をとおして眺めます。

○スペクタクルの社会と記憶の生成(9月16日)：小澤慶介(AIT)
フランスの思想家、ギー・ドゥポールの著作「スペクタクルの社会」などに見る思想を参照しながら、世界化した現代社会とスペクタクル性の関係を考えます。また、そのような社会において「作り上げられる」集合的な記憶に関する問題をいくつかの作品をとおして考えます。

○「地域」と「世界」をつなぐ仕組みを考える(10月21日)：北川フラム(アートフロントギャラリー 主宰／地中美術館 総合ディレクター／新潟市美術館 館長)
交通や通信の技術が発達した現代では、「地域」と「世界」は、むしろ直接的に結びつくことができると考えることは自然なことかもしれません。地域の歴史や文化資産をアート作品やプロジェクトで見出し、それを外に向けて発信するアート・プロジェクトについて考えます。

○クレオールについて(2010年2月4日)：小澤慶介(AIT)
カリブ海の島々において、人種の「混血」を意味した「クレオール」。その歴史を16世紀まで遡りながら、現代のクレオール文化について考えます。絶え間ない運動のなかで、根づくことなく移動することによって生まれる文化から、改めて「世界」を見つめ直します。

○映像文化の現在(2010年3月4日)：住友文彦(AIT)
20世紀をとおして発展してきた映像文化。映像の到来によって、私たちの認識はどのように変わったのかを踏まえながら、その現在地を探ります。音響や身体表現、建築など、他の芸術ジャンルとの新たな関係性なども考慮しながら、議論します。

●美の起源と射程

○「美」と「崇高」(6月3日)：辻憲行(フリーランス・キュレーター／翻訳家)
「美」について、古代ギリシアのプラトンやアリストテレスから18世紀ドイツの哲学者、エマニュエル・カントの著作「判断力批判」を参照しながら考察します。また「美」とは違う観点から捉えられる美的な経験、「崇高」についても合わせて考えます。

○不定形という美(10月15日)：江澤健一郎(立教大学 非常勤講師)
20世紀の初めにフランスで生きたジョルジュ・パタイユ。西洋哲学の体系内にありながら、その外を思考し続けた思想家として、特異な位置を占めています。「ドキュマン」や「アセファル」など、彼の思考を具体化した表象をたよりに、異形の美について考えます。

○「美」という装置(11月4日)：辻憲行(フリーランス・キュレーター／翻訳家)
芸術やデザイン、ファッションに限らず、政治やスポーツ、料理などにおいても「美」的な表現は見られます。日常における「美」は、私たちにどのように関わり、作り変えて来た／行くのでしょうか？参考にするのは、フーコー、アガンベン、ガタリ、ブリオー、クレーリーなどの著作です。

●アートと公共性

○日常実践とキュレーション(5月21日)：ロジャー・マクドナルド(AIT)
キュレーションが多様化している現在、その可能性の一つとして日常的な空間や行為を考えることは重要です。ミシェル・ド・セルトーの著作「日常実践のポイエティーク」を参照しながら、本やウェブ、アーカイブなどの非スペクタクルな空間におけるキュレーションを考えます。

○日本の文化政策とアートの現在(6月16日)：吉本光宏(ニッセイ基礎研究所)
80年代以降の日本の文化政策を概観し、政府の進める美術館の独立行政法人化や指定管理者制度導入の影響を解説し、あわせてクリエイティブシティなど最近のアートを取り巻く環境変化と可能性について考察します。

○建築で都市空間を読む(7月9日)：鈴木木明(建築家／神戸芸術工科大学教授)
現在の都市空間は、資本主義社会における生産性や効率性を高めるための計画や建築によって成り立っていますが、自然災害などによってそれらが妨げられる時には、どのような建築が有効になるのでしょうか。都市という空間を、建築をとおして相対化して考えます。

○美術館と地域社会の新しい関係性(10月29日)：秋元雄史(金沢21世紀美術館 館長)
2004年に開館して以来、建築や展覧会だけではなく、アーティスト・イン・レジデンスやワークショップなど、現代アートと金沢市民をはじめさまざまな地域の人々を結ぶプログラムづくりを行ってきた金沢21世紀美術館。これまでの活動や将来への展望を通して、新しい美術館のあり方を考えます。

○ゴードン・マッタ・クラーク、反-建築、エントロピー(2010年1月21日)：ロジャー・マクドナルド(AIT)
1970年代の初めにロバート・スミッソンが理論化したエントロピーの考えに基づき、ゴードン・マッタ・クラークの作品やプロジェクトを紹介します。社会空間に対する非建築的なアプローチとともに、今日の公共圏の衰退とアーティストが地域社会の形成に関わる可能性を探ります。

○戦術的なアートのためのワークショップー「公共」のコードを捉える(2010年2月20日)：森弘治(美術家)
「公共」についてのアーティストの考えや取り組みを紹介したあと、実際に街に出て、「公共」という概念を支えているさまざまなマークや場所、現象をデジタルカメラで撮り集め、議論します。見なれた街の、いつもとは違う表情を探る試みです。

○美術館の終焉と身体の回帰(2010年2月25日)：ロジャー・マクドナルド(AIT)
国内のみならず海外においても、多くの問題と課題に直面している美術館。アートの表現形式の変化と美術館の限界は不可分かもしれません。1960年代のクラブから現在まで、アートが経験された空間のもう一つの歴史を、身体性というキーワードをとおして眺めます。

○公共圏とアートの実践(2010年3月2日)：毛利嘉孝(東京藝術大学 准教授)
「小さな政府」を目指して各国で進められた民営化政策。このプロセスは、経済活動を自由化する一方で、「公」という概念が「民」に転換してゆくものでした。「公」という概念と空間がすり減ってゆく現在の状況について、アートの実践をとおして眺めます。

●実践スキル

○展覧会や作品の記録ワークショップ(6月4日)：木奥恵三(フォトグラファー)
作品や展覧会を見やすく記録することは重要です。森美術館や金沢21世紀美術館での展覧会の記録写真撮影の実績から、アングルの取り方、照明に関する基礎知識を実践しながら説明します。また、一般的なデジタルカメラで記録写真を撮る際のコツや注意点なども紹介します。

○デザインとコミュニケーション(6月30日)：古平正義(アートディレクター)
コンセプトや形式の特徴、あるいは出品作品を視覚化してDMやチラシ、ポスターにし、展覧会と社会とをつなぐデザインという仕事。限られた予算で、効果的な周知広報や鑑賞者の動員を実現するデザインについて、具体例を挙げながら紹介します。

○ファンドレイジングを考える(9月17日)：塩見有子(AIT)／小澤慶介(AIT)
展覧会やアート・プロジェクトの資金調達の方法について、実例をもとに紹介します。またどのようにしたら自分の考えが、助成申請先や文化支援を行っている企業の担当者に伝わるのかについても検討します。

○展覧会評と批評の実践(11月17日／12月2日)：小澤慶介(AIT)
実際に開催中の展覧会を題材に、批評を書いてみましょう。美術史のみならず、社会学や哲学思想など、他の学問分野に見る考えを積極的に取り入れながら、現代の視覚文化における美術作品や展覧会を論じる試みをします。

○アートと国際交流(2010年1月20日)：帆足亜紀(アート・コーディネーター)
アーティストやキュレーターなどの専門家どうしの国際交流の目的と意義、期待される成果、実践上の課題点を考察するほか、企画立案・交渉・実践・評価のプロセスを、アーティスト・イン・レジデンス事業などにおける具体例をとおして検討します。

集中講座

MADでは、「アート・マーケットの仕組みと産業としてのアート」、「キュレーション力をつける ―『面白い！』をアート・プロジェクトにする」、
「環境・アート・想像力」、「マルチチュードとアート ― 芸術のみが社会を変える」、「現代アート A to Z」、「絵画の歴史 ― 近代から現代まで」、
「アルカイック・ノスタルジアー 身体の回帰とアートの拡張」の、7つのテーマで集中講座を開講します。レクチャーやディスカッションをと
おして、特定のテーマについて集中的に学ぶことができます。

○アート・マーケットの仕組みと産業としてのアート

5月30日(土)13:00～15:00、15:15～17:15

レクチャー：辛美沙(Misa Shin & Co. 代表／アートフェア東京 エグゼクティブ・ディレクター)

アーティストによる表現や行為を「アート」として価値づけ、流通や売買を可能にするアート・マーケット。アーティストやギャラリスト、コレ
クター、キュレーター、評論家などのプレーヤーは、アート・マーケットにおいてどのような役割を担っているのでしょうか。過去10年に形成
されてきたグローバルな規模のアート・マーケットと日本のアート・マーケットの基本的な構造およびそれらの関係性について概観したあと、
金融危機の影響のなかで、それらが今後どのように変化してゆくのかについて考えます。

○キュレーション力をつける ―「面白い！」をアート・プロジェクトにする

7月10日(金)19:00～21:00／7月18日(土)13:00～14:30、15:00～16:30

レクチャー：遠藤水城(アークス・プロジェクト ディレクター／フリーランス・キュレーター)

自分で考え、友達に伝え、話を共有してゆくうちにいつの間にか仲間が集う場ができ、作品を展示してみる。美術館やギャラリーとは違うやり
方でもキュレーションを行うことはできます。国内外で活躍するキュレーターが、福岡での音楽イベントやフィリピンでのアートスペース作
り、インドネシアでの出版プロジェクト、イタリアやフランスでの展覧会など自らのキュラトリアル・プロジェクトを紹介しながら、自分の関
心をキュレーションに発展させてゆく方法について、受講生と一緒に考えます。

○環境・アート・想像力

9月18日(金)19:00～21:00／9月19日(土)13:00～14:30、15:00～16:30

レクチャー：芹沢高志(アート・ディレクター)

グレゴリー・ベイトソンの思索やバックミンスター・フラーの著作「宇宙船地球号操縦マニュアル」、ニューヨークで行われたイベント「アース・
デイ」など、環境の問題とアートの関係を60－70年代から考え始めます。現在、地球規模の環境問題が大きく取り上げられ、環境ということが
政治、経済や技術、産業の枠組みのなかでも無視できない要素となりつつあります。しかし、そもそも環境とは何なのか？こうした根源的な問
いにまで戻りつつ、アートの実践をとおした、環境に対するオルタナティブな接し方を探ります。

○マルチチュードとアート ― 芸術のみが社会を変える

10月16日(金)19:00～21:00／10月17日(土)13:00～14:30、15:00～16:30

レクチャー：廣瀬純(龍谷大学経営学部 教員)

かつて「日曜画家」という言葉がありました。月から土までは工場やオフィスで労働に専念し、日曜日にだけ好きな絵を描く。日曜画家たちの
生活はふたつの「カンバス」からなっていたわけです。労働／搾取の場としての「工場」というカンバス、芸術／自由の場としての字義通りのカ
ンバス。しかしいまでは日曜画家などもう存在し得ません。社会全体あるいは生活全体が「工場」となってしまったのですから。私たち(マルチ
チュード)は、いっさい外部のない巨大な「工場」のなかで生きています。それでもなお私たちに芸術は可能なのでしょうか。

○現代アート A to Z

11月6日(金)19:00～21:00／11月7日(土)13:00～14:30、15:00～16:30

レクチャー：ロジャー・マクドナルド(AIT)／小澤慶介(AIT)

「現代アートは難しい」といわれますが、なぜ「難しい」のかを明らかにしながら、現代アートへの道を開いてゆく、初めての人にやさしい講座
です。現代アートは、現代という空気を吸って生み出されている以上、実はこの時代と深い関係があります。アート界の構造から、現代という
時代の捉え方、また時代性とアートとの関係について基礎的な知識や考え方を踏まえた上で、具体的な作品や展覧会に触れながら現代アート
を総体的に捉えます。

○絵画の歴史 ― 近代から現代まで

2010年2月5日(金)19:00～21:00／2月6日(土)13:00～14:30、15:00～16:30

レクチャー：保坂健二郎(東京国立近代美術館 研究員)

19世紀から20世紀にかけての絵画史の一つの流れを、ギュスターヴ・クールベ、フランシス・ベーコン、リュック・タイマンズという三人のペイン
ターの作品や考えをたよりに読み解きます。キーワードは、リアリズム。時代の変化とともに「リアル」も変容するよう見えます。写真や映像な
どの複製技術などの到来によって、ますます絵画の可能性が問われる現代ですが、絵画にはもしかしたら現実を現実よりも「リアル」に表す可
能性があるとは考えられないでしょうか。他のペインターの作品なども参照しながら、近代と形容される時代性と絵画の関係性を読み解きます。

○アルカイック・ノスタルジアー 身体の回帰とアートの拡張

2010年3月6日(土)13:00～15:00、15:15～17:15

＊この講座は、英語で行われます。

レクチャー：ロジャー・マクドナルド(AIT)

音響や視覚体験、パフォーマンス、テキストなどによって拡張する現在のアートの実践について考え、これらがどのようにギャラリーや美術
館などに見る伝統的なアートの空間に実質的な影響を与えているのかを探ります。リジャ・クラークやフランツ・ウェストなどの作品、また鑑
賞者が関係を持つことで成立する作品などを参照しながら、このような現象や傾向について、近代をとおして成立した美術制度の枠組みにお
いて捉えるのではなく、古代や未来を行き来しながら循環する時間の理解によって捉えます。

Archaic Nostalgia, the Return of the Body and Expansion in Art Now.

6 March 2010 13:00～15:00, 15:15～17:15

This lecture will be held in English.

Lecturer: Roger McDonald(AIT)

The intention of this seminar is to offer a different context in which to think about the expansion of art practices today to incorporate sound,
music, visual experience, performance and text together, and how this affects traditional art spaces such as the gallery and the museum. Rather
than try to understand this solely through modernist frameworks, the intention is to try and use a more cyclical understanding of time as
moving into the archaic as well as into many possible futures.

Session 1: introduce the works and ideas of Brazilian Lygia Clark and the Austrian Franz West.

Session 2: try to situate and understand the works of Clark and West within recent ideas about participation, multi-media environments and
process.

2009年4月～7月			
	4月	5月	6月
キュレーション・プラクティス (実践)	14日(火) 必修レクチャー1 キュレーションの歴史 ロジャー・マクドナルド	12日(火) 必修レクチャー3 キュレーターとは？ 南 寛	9日(火) 必修レクチャー4 美術展と国際展をめぐるキュレーション 飯田志保子
	28日(火) 必修レクチャー2 キュレーションのマッピング ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	19日(火) チュートリアル1	23日(火) チュートリアル2
キュレーション・ベーシック (基礎)	14日(火) 必修レクチャー1 キュレーションの歴史 ロジャー・マクドナルド	12日(火) 必修レクチャー3 キュレーターとは？ 南 寛	9日(火) 必修レクチャー4 美術展と国際展をめぐるキュレーション 飯田志保子
	28日(火) 必修レクチャー2 キュレーションのマッピング ロジャー・マクドナルド／小澤慶介		7日(火) 必修レクチャー5 展覧会の企画立案と管理進行について 塩見有子／小澤慶介
アート＋コミュニケーション	9日(木) 必修レクチャー1 現代アートとは何か？ ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	14日(木) 必修レクチャー3 写真と映像の歴史 杉田敦	11日(木) 必修レクチャー5 インスタレーション・アート ロジャー・マクドナルド
	23日(木) 必修レクチャー2 日本の戦後美術史 住友文彦	28日(木) 必修レクチャー4 20世紀の絵画 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	25日(木) 必修レクチャー6 ビデオアートと視覚文化 小澤慶介
アーティスト	11日(土) 必修クラス1 アート界のマッピング ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	9日(土) 必修クラス3 作品講評＋セミナー1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	13日(土) 必修クラス5 作品講評＋セミナー3 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
	25日(土) 必修クラス2 プレゼンテーション1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	23日(土) 必修クラス4 作品講評＋セミナー2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	27日(土) 必修クラス6 プレゼンテーション2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
マガジン	15日(水) 必修クラス1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	13日(水) 必修クラス2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	10日(水) 必修クラス4 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
		27日(水) 必修クラス3 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	8日(水) 必修クラス6 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
	16日(木) テキストを読む1 ダグラス・クリンプ「美術館の廃墟に」 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	7日(木) テキストを読む2 ダグラス・クリンプ「美術館の廃墟に」 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	3日(水) 美の起源と射程1 「美」と「崇高」 辻憲行
	21日(火) アートと仕事1 アート界で仕事を始めるために1 ギャラリーと美術館 永吉文子／西川美穂子	20日(水) グローバル・スタディーズ1 ポスト・コロニアリズムと表象の問題 小澤慶介	4日(木) 実践スキル1 展覧会や作品の記録ワークショップ 木奥恵三
フリー・ブロック		21日(木) アートと公共性1 日常実践とキュレーション ロジャー・マクドナルド	16日(火) アートと公共性2 日本の文化政策とアートの現在 吉本光宏
			18日(木) アートと仕事2 アート界で仕事を始めるために2 出版 宮崎香菜／柳下朋子
			30日(火) 実践スキル2 デザインとコミュニケーション 古平正義

	9月	10月	11月	12月
キュレーション・プラクティス (実践)	15日(火) チュートリアル4	13日(火) 必修レクチャー7 インディペンデントなキュレーション 崔敬華	10日(火) 必修レクチャー8 新しい美術館、変化するキュレーション 逢坂恵理子	1日(火) 必修レクチャー9 地域とキュレーションの関係 小澤慶介
	29日(火) 必修レクチャー6 社会空間とキュレーション 小澤慶介	27日(火) チュートリアル5	24日(火) チュートリアル6	15日(火) チュートリアル7
キュレーション・ベーシック (基礎)	29日(火) 必修レクチャー6 社会空間とキュレーション 小澤慶介	13日(火) 必修レクチャー7 インディペンデントなキュレーション 崔敬華	10日(火) 必修レクチャー8 新しい美術館、変化するキュレーション 逢坂恵理子	1日(火) 必修レクチャー9 地域とキュレーションの関係 小澤慶介
				8日(火) プレゼンテーション2
アート+コミュニケーション	24日(木) 必修レクチャー1 公共とは何か? ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	8日(木) 必修レクチャー2 オルタナティヴという方法を考える ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	12日(木) 必修レクチャー4 展覧会と物語づくり ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	5日(土) 必修レクチャー5 パブリック・プログラム・ワークショップ:東京都現代美術館 郷泰典
		22日(木) 必修レクチャー3 コミュニティーの潜在力とアート 遠藤水城		10日(木) 必修レクチャー6 アーティストが可能にするコミュニティー作り 中村政人
アーティスト	26日(土) 必修クラス1 アート界のマッピング ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	10日(土) 必修クラス2 プレゼンテーション1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	14日(土) 必修クラス4 作品講評+セミナー2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	12日(土) 必修クラス6 プレゼンテーション2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
		24日(土) 必修クラス3 作品講評+セミナー1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	28日(土) 必修クラス5 作品講評+セミナー3 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	
マガジン	30日(水) 必修クラス1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	14日(水) 必修クラス2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	11日(水) 必修クラス4 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	9日(水) 必修クラス6 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
		28日(水) 必修クラス3 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	25日(水) 必修クラス5 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	
フリー・ブロック	16日(水) グローバル・スタディーズ2 スペクタクルの社会と記憶の生成 小澤慶介	7日(水) アートと仕事4 アートをプロデュースすること 藤城里香	4日(水) 美の起源と射程3 「美」という装置 辻憲行	2日(水) 実践スキル5 展覧会評と批評の実践 2 小澤慶介
	17日(木) 実践スキル3 ファンドレイジングを考える 塩見有子／小澤慶介	15日(木) 美の起源と射程2 不定形という美 江澤健一郎	5日(木) テキストを読む4 オクウィ・エンヴェゾー 「スペクタクルの政治学」 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	3日(木) テキストを読む6 シーミン・ガオ「『ポスト-コロニアリズム以降』についての観測と胸さわぎ」 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
		20日(火) テキストを読む3 オクウィ・エンヴェゾー 「スペクタクルの政治学」 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	17日(火) 実践スキル4 展覧会評と批評の実践 1 小澤慶介	
		21日(水) グローバル・スタディーズ3 「地域」と「世界」をつなぐ仕組みを考える 北川フラム	18日(水) テキストを読む5 シーミン・ガオ「『ポスト-コロニアリズム以降』についての観測と胸さわぎ」 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	
		29日(木) アートと公共性4 美術館と地域社会の新しい関係性 秋元雄史		

2010年1月～3月			
	2010年1月	2010年2月	2010年3月
キュレーション・プラクティス(実践)	19日(火) 必修レクチャー10 国際展の現在 ロジャー・マクドナルド	9日(火) 必修レクチャー11 知識の生産と展覧会 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	16日(火) チュートリアル10
	26日(火) チュートリアル8	23日(火) チュートリアル9	
キュレーション・ベーシック(基礎)	19日(火) 必修レクチャー10 国際展の現在 ロジャー・マクドナルド	9日(火) 必修レクチャー11 知識の生産と展覧会 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	9日(火) プレゼンテーション3
アーティスト	9日(土) 必修クラス1 アート界のマッピング ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	13日(土) 必修クラス3 作品講評＋セミナー1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	13日(土) 必修クラス5 作品講評＋セミナー3 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
	23日(土) 必修クラス2 プレゼンテーション1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	27日(土) 必修クラス4 作品講評＋セミナー2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	27日(土) 必修クラス6 プレゼンテーション2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
マガジン	13日(水) 必修クラス1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	10日(水) 必修クラス3 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	10日(水) 必修クラス5 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
	27日(水) 必修クラス2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	24日(水) 必修クラス4 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	24日(水) 必修クラス6 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
フリー・ブロック	14日(木) アートと仕事5 コマーシャル・ギャラリーの仕事とマーケットの仕組み 石井孝之	4日(木) グローバル・スタディーズ4 クレオールについて 小澤慶介	2日(火) アートと公共性8 公共圏とアートの実践 毛利嘉孝
	20日(水) 実践スキル6 アートと国際交流 帆足亜紀	16日(火) テキストを読む7 ニコラ・プリオー「ポスト・プロダクション」 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	4日(木) グローバル・スタディーズ5 映像文化の現在 住友文彦
	21日(木) アートと公共性5 ゴードン・マッタ・クラーク、反-建築、エントロピー ロジャー・マクドナルド	20日(土) アートと公共性6 戦略的なアートのためのワークショップ 「公共」のコードを捉える 森弘治	11日(木) テキストを読む8 ニコラ・プリオー「ポスト・プロダクション」 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
	28日(木) アートと仕事6 アーティストの仕事 名和晃平	25日(木) アートと公共性7 美術館の終焉と身体の回帰 ロジャー・マクドナルド	20日(土) アートと仕事7 アーティスト・イン・レジデンスのこれから 塩見有子

スタッフ

ロジャー・マクドナルド〔コース・ディレクター〕

1971年生まれ。イギリスのケント大学にて宗教学修士課程修了後、美術理論にて博士号を取得。1998年より、インディペンデント・キュレーターとして、国内外で数々の小規模な展覧会を企画。2006年の第一回「シンガポール・ビエンナーレ2006」では、キュレーターとして活動。興味の対象は幅広く、キュレーションの歴史、特権的なアートスペース以外で行われるインディペンデントなキュレーションの可能性の研究のほか、キュレーションと社会政治研究のための個人的なアーカイブ作りに取り組む。低予算で社会に介入してゆくインディペンデントな動き「タクティカル・キュレーティング(tactical curating)」を調査するウェブログ「タクティカル・ミュージアム(The Tactical Museum)」を主宰。http://www.rogermc.blogs.com/tactical/ アートスケープ・インターナショナルに展覧会評を執筆中。武蔵野美術大学非常勤講師。多摩美術大学非常勤講師。

小澤慶介〔コース・ディレクター〕

1971年生まれ。ロンドン大学ゴールドスミスカレッジにて美術史の修士号を取得。これまでに、世界化する社会における「記憶」や「空間」、「身体」などの問題にアプローチしたビデオアートのグループ展「your memorabilia 記憶へのまなざし」(東京国際フォーラム／2003)、「paradise views 楽園の果て」(東京国際フォーラム／2004)、「dreaming bodies 夢みる身体」(アサヒ・アートスクエア／2005)などを企画。AITにおいては、MADのカリキュラム編成を行うほか、時間限定で開館する実験的な美術館プロジェクト「16時間美術館」(ヒルサイドテラス、AIT、スーパーデラックスほか／2007)や「おきなわ時間美術館」(那覇市栄町市場古民家ほか／2007)、またアートの実践をとおして環境の問題を考える「環境・術」(ヒルサイドテラス／2008)などの企画・制作指揮を行う。アートフェア東京アソシエイト・ディレクター。慶應義塾大学非常勤講師。

住友文彦〔レクチャラー〕

1971年生まれ。キュレーター。韓国、中国、日本のアーティストが参加した「アウト・ザ・ウィンドウ」展(国際交流基金アジアセンター／2004)、戦後の美術から最新の動向までを取り組みを取り上げた「Possible Futures: アート & テクノロジー過去と未来」展(ICC／2005)を企画。また、日本の現代美術を紹介する展覧会として「Rapt!: 20 contemporary artists from Japan」展(オーストラリア／2006)、「美麗新世界」(中国／2007)の企画にも関わる。2008年には「川俣正[通路]」展(東京都現代美術館)やαMプロジェクト(武蔵野美術大学)のキュレーションを手掛け、2009年は横浜でおこなわれる横浜国際映像祭のディレクターに就任する。リクリット・ティラヴァニャに関する「身体の贈与」(共著『表象のディスクール6 創造』、東京大学出版会、2000年)、「映像の中へ」(『21世紀の出会い? 共鳴、ここ・から』、金沢21世紀美術館、淡交社、2004年)、「複雑で便利な時代と見えなくなるアート」(共著『21世紀における芸術の役割』未来社、2006年)などの論考がある。

中森康文〔レクチャラー〕

米国ヒューストン美術館(The Museum of Fine Arts, Houston)写真部門キュレーター。コーネル大学美術史学部非常勤講師。担当展覧会には1950年以降のコンセプチュアルアートと写真との関係についてのもの、やなぎみわ、畠山直哉などの作家の個展がある。著作には、日本現代美術、写真及び建築に関するものに加えて、著作権と写真との関係に関するものがあり、これまでニューヨーク近代美術館、フリックコレクション、MIT、コーネル大学等にて講義を行う。ニューヨーク近代美術館教育部レクチャラーとして2007年まで3年間成人教育プログラムの作成及び実行に従事する。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業後、米国ウィスコンシン大学ロースクール卒業(ニューヨーク州弁護士)。現在コーネル大学美術史博士候補(博士論文は日本の1953年から1970年の建築家美術家間のコラボレーションと社会思想の関係について)。

塩見有子〔マネージング・ディレクター、レクチャラー〕

学習院大学法学部政治学科卒業後、イギリスのサザビーズインスティテュートオブアーツにて現代美術ディプロマコースを修了。帰国後、ナンジョウアンドアソシエイツにて国内外の展覧会やアート・プロジェクトのコーディネート、コーポレートアートのコンサルタント、マネージメントを担当。2002年、仲間と共にNPO法人アーツイニシアティヴトウキョウを立ち上げ、代表に就任。AITでは、レジデンスやMADをはじめとするAITの活動全体の企画やマネージメント、組織運営を行う。また、芸術文化に関わる基盤作りやアーティスト支援に取り組む。AITが企画協力をするマネックス・ピーンズ・ホールディングス株式会社主催の「アート・イン・ザ・オフィス」プログラム審査委員。

肥田暁子〔スタッフ〕

学習院大学文学部哲学科美学美術史専攻卒業。1998-99年ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ留学。2003年MADのキュレーションコース修了後、AITのスタッフに加わる。「アート・スコープ」(原美術館／2004、2005、2006、2008)などの展覧会や、シンガポール・ビエンナーレ2006日本事務局(2006年)、AITアーティスト・イン・レジデンス・プログラム(2003年～)、アート・イン・ザ・オフィス(2008年)などのプロジェクトに携わる。

堀内奈穂子〔レクチャラー〕

2005年にエジンバラ・カレッジ・オブ・アートの現代美術論修士課程を修了後、「Reversible」(スコットランド国会議事堂／2007)などの展覧会企画を行う。また、ドクメンタ12マガジンズ・プロジェクト「メトロノーム11号 ― 何をなすべきか? 東京」では、アシスタント・キュレーターを務めた。AITでは「PLATFORM横浜セミナーAFTER HOURS」(東京藝術大学横浜キャンパス新港校舎／2008)や「環境・術」(ヒルサイドテラス／2008)の企画補佐などを行う。

宮原洋子〔サポート〕

慶應義塾大学文学部哲学科美学美術史学専攻卒業。1995-2002年ナンジョウアンドアソシエイツにおいて、国際美術評論家連盟(AICA)日本大会事務局、「横浜トリエンナーレ2001」における120名余の制作ボランティアのコーディネート、新設美術館の基礎図書資料の整備、MADの立ち上げ等に携わる。2002年開館準備段階より森美術館に勤務。南條史生館長の秘書として現在に至る。

MAD 2009 ゲスト・レクチャラー

秋元雄史(金沢21世紀美術館 館長)

飯田志保子(東京オペラシティアートギャラリー キュレーター)

石井孝之(タカ・イシイギャラリー 代表)

江澤健一郎(立教大学 非常勤講師)

遠藤水城(アーカス・プロジェクト ディレクター／フリーランス・キュレーター)

逢坂恵理子(森美術館 アーティスティック・ディレクター)

木奥恵三(フォトグラファー)

北川フラム(アートフロントギャラリー 主宰／地中美術館 総合ディレクター／新潟市美術館 館長)

郷泰典(東京都現代美術館 教育普及係 学芸員)

古平正義(アートディレクター)

塩見有子(AIT)

杉田敦(美術批評家／女子美術大学 教授／オルタナティブ・スペース art & riverbank ディレクター)

鈴木明(建築家)

住友文彦(AIT)

崔敬華(フリーランス・キュレーター)

辻憲行(フリーランス・キュレーター／翻訳家)

中村政人(美術家)

永吉文子(SCAI THE BATHHOUSE)

名和晃平(アーティスト)

西川美穂子(東京都現代美術館 学芸員)

藤城里香(無人島プロダクション 代表)

帆足亜紀(アート・コーディネーター)

堀内奈穂子(AIT)

南薫宏(女子美術大学 教授)

宮崎香菜(BT/美術手帖 編集部)

毛利嘉孝(東京藝術大学 准教授)

森弘治(美術家)

柳下朋子(ART iT 編集部)

吉本光宏(ニッセイ基礎研究所)

集中講座 ゲスト・レクチャラー

辛美沙(Misa Shin & Co. 代表／アートフェア東京 エグゼクティブ・ディレクター)

遠藤水城(アーカス・プロジェクト ディレクター／フリーランス・キュレーター)

芹沢高志(アート・ディレクター)

廣瀬純(龍谷大学経営学部 教員)

保坂健二郎(東京国立近代美術館 研究員)

※掲載している情報は、2008年12月現在のものです。

コース概要

キュレーション・プラクティス(実践)[12ヶ月]

期間＝2009年4月14日(火)－2010年3月16日(火) フリー・ブロック 25回(選択制)

時間＝19:00－21:00

場所＝AITルーム(代官山)

定員＝12人

費用＝229,950円(税込)[受講料200,000円＋施設維持費2,000円＋資料費15,000円＋選考費2,000円]

受講資格＝申込書とインタビューによる選考あり。

キュレーション・ベーシック(基礎)[12ヶ月]

期間＝2009年4月14日(火)－2010年3月9日(火) フリー・ブロック 20回(選択制)

時間＝19:00－21:00

場所＝AITルーム(代官山)

定員＝20人

費用＝201,600円(税込)[受講料180,000円＋施設維持費2,000円＋資料費10,000円]

受講資格＝特になし。

アート＋コミュニケーション[前期:4ヶ月／後期:4ヶ月]

期間＝前期:2009年4月9日(木)－2009年6月25日(木) 後期:2009年9月24日(木)－2009年12月10日(木) フリー・ブロック 前期、後期 各10回(選択制)

時間＝19:00－21:00

場所＝AITルーム(代官山)

定員＝各回 20人

費用＝79,800円(税込)[受講料74,000円＋施設維持費2,000円]〈各期〉

受講資格＝特になし。

アーティスト[3ヶ月]

期間＝春 2009年4月11日(土)－2009年6月27日(土) 第2・4土曜日 秋 2009年9月26日(土)－2009年12月12日(土) 第2・4土曜日

冬 2010年1月 9日(土)－2010年3月27日(土) 第2・4土曜日 フリー・ブロック 各回3回(選択制)

時間＝14:00－16:00

場所＝AITルーム(代官山)

定員＝各回12人

費用＝38,850円(税込)[受講料35,000円＋施設維持費2,000円]

受講資格＝作品を制作しているアーティストを対象。定員を大幅に超える場合、インタビューによる選考あり。

マガジン[3ヶ月]

期間＝春 2009年4月15日(水)－2009年7月 8日(水) 隔週水曜日 秋 2009年9月30日(水)－2009年12月9日(水) 隔週水曜日

冬 2010年1月13日(水)－2010年3月24日(水) 隔週水曜日 フリー・ブロック 各回3回(選択制)

時間＝19:00－21:00

場所＝AITルーム(代官山)

定員＝各回12人

費用＝36,750円(税込)[受講料33,000円＋施設維持費2,000円]

受講資格＝特になし。

※8月と9月の一部は休講です。※上記は必修レクチャーの期間です。フリー・ブロックの日程はP14・P19でご確認ください。※記載している情報は、2008年12月現在のものであり、必修レクチャーおよびフリー・ブロックの内容や日程、レクチャーなどは、変更される場合があります。その場合は、事前に告知されます。

集中講座

[1]「アート・マーケットの仕組みと産業としてのアート」レクチャー：辛美沙(Misa Shin & Co. 代表／アートフェア東京 エグゼクティブ・ディレクター)

期間＝2009年5月30日(土) 1日のみ

時間＝13:00－15:00／15:15－17:15

場所＝AITルーム(代官山)

定員＝20人

費用＝8,400円(税込)

受講資格＝特になし。

[2]「キュレーション力をつける －『面白い!』をアート・プロジェクトにする」

レクチャー：遠藤水城(アーカス・プロジェクト ディレクター／フリーランス・キュレーター)

期間＝2009年7月10日(金)、18日(土) 2日間

時間＝19:00－21:00[7月10日(金)]、13:00－14:30／15:00－16:30[7月18日(土)]

場所＝AITルーム(代官山)

定員＝20人

費用＝12,600円(税込)

受講資格＝特になし。

[3]「環境・アート・想像力」レクチャー：芹沢高志(アート・ディレクター)

期間 2009年9月18日(金)、19日(土) 2日間

時間 19:00－21:00[9月18日(金)]、13:00－14:30／15:00－16:30[9月19日(土)]

場所 AITルーム(代官山)

定員 20人

費用 12,600円(税込)

受講資格 特になし。

[4]「マルチチュードとアートー芸術のみが社会を変える」レクチャー：廣瀬純(龍谷大学経営学部 教員)

期間 2009年10月16日(金)、17日(土) 2日間

時間 19:00－21:00[10月16日(金)]、13:00－14:30／15:00－16:30[10月17日(土)]

場所 AITルーム(代官山)

定員 20人

費用 12,600円(税込)

受講資格 特になし。

[5]「現代アートA to Z」レクチャー：ロジャー・マクドナルド(AIT)／小澤慶介(AIT)

期間 2009年11月6日(金)、7日(土) 2日間

時間 19:00－21:00[11月6日(金)]、13:00－14:30／15:00－16:30[11月7日(土)]

場所 AITルーム(代官山)

定員 20人

費用 12,600円(税込)

受講資格 特になし。

[6]「絵画の歴史―近代から現代まで」レクチャー：保坂健二郎(東京国立近代美術館 研究員)

期間 2010年2月5日(金)、6日(土) 2日間

時間 19:00－21:00[2月5日(金)]、13:00－14:30／15:00－16:30[2月6日(土)]

場所 AITルーム(代官山)

定員 20人

費用 12,600円(税込)

受講資格 特になし。

[7]「アルカイック・ノスタルジアー 身体の回帰とアートの拡張」レクチャー：ロジャー・マクドナルド(AIT)

期間 2010年3月6日(土) 1日のみ

時間 13:00－15:00／15:15－17:15

場所 AITルーム(代官山)

定員 20人

費用 8,400円(税込)

受講資格 特になし。ただし、この講座は英語で行われます。

※集中講座の内容と日程は、変更される場合があります。その場合は事前に告知されます。

[お申し込み方法] AITのホームページよりお申し込みいただくか、下記問い合わせ先まで、お名前、ご住所、ご連絡先(電話、ファックス、携帯電話など)を明記の上、メールにて申込書をご請求ください。各コースの受講生募集期間と地図は、AITのホームページをご参照ください。

※原則として、申し込みが受理された後のキャンセル・返金は受け付けません。※定員に達した場合はお断りする場合があります。

MAD2009 無料説明会「MADオープンデー」

＜2009年度全コース説明会＞ 2009年1月30日(金)19:00－20:30／2009年2月20日(金)19:00－20:30／2009年3月6日(金)19:00－20:30

全コースについての説明会を上記の日程で開催予定です。お申し込み希望の方は、件名を「〇月〇日MADオープンデー参加希望」とし、住所、氏名、電話番号、興味のあるコース名を明記したメールを、office@a-i-t.netまでお送りください。折り返し確認メールを送付いたします。

＜2009年度秋・冬コース説明会＞

秋コース説明会＝2009年7月17日(金)／8月28日(金)19:00－20:30 冬コース説明会＝2009年11月27日(金)19:00－20:30

問い合わせ先

特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT／エイト]

〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町30-3 ツインビル代官山A-502

Tel: 03-5489-7277 Fax: 03-3780-0266 E-mail: office@a-i-t.net http://www.a-i-t.net

20代／女性 2002年キュレーション

受講時:学生／現在:コロンビア大学大学院アーツ・アドミニストレーション修士課程在籍

MADを受講して一番良かったと思うことは、アート界で活躍している様々な方と、実際にお会いする機会が増えたことです。受講後の今でも、こうしたつながりは、すばらしい形で続いています。

30代／女性 2002年キュレーション

受講時:学生／現在:東京都現代美術館 学芸員

授業では毎回、知的興奮で脳が発火しているかのようになった。私にとって何のものにもかえがたいのは、MADで学び、そこでさまざまな人に出会ったことで、アートに対してポジティブな信念を持つことができるようになったことである。

30代／女性 2003年キュレーション

受講時:アルバイト／現在:SCAI THE BATHHOUSE

ギャラリースタッフとして、今の自分の立ち位置から何かクリエイティブにおもしろいことはできないか、という思いを持って仕事を楽しむことができるのは、MADで培った、「アートを通して社会と主体的に関わるというスタンス」と、さまざまなネットワークのおかげだと思います。

30代／男性 2004年アーティスト

受講時:アーティスト／現在:アーティスト

MADの面白さは、さまざまな経歴をもつ人が、一つの場所でアートを語る事が出来るということに尽きます。そこで生まれる人間関係をどのように発展させるかは個人の課題にするとして、そんな出会いの場がすごくオープンな状態で用意されていることが素晴らしいと思います。

20代／男性 2004年キュレーション

受講時:アルバイト／現在:アートプロデューサー／ライター

MADの授業で、型にはまらない様々なキュレーションの事例に触れることができたことは、受身でなく自ら仕事をつくり出す努力をしたり、小規模・趣味的でも面白いプロジェクトを行っていくという現在の自分のスタイルにつながっていると思う。

30代／男性 2004年キュレーション、2004年・2006年クリティカル・リーダーズ

受講時:会社員／現在:TAB <http://www.tokyoartbeat.com/> NYAB <http://www.nyartbeat.com> 共同設立者

コンテンポラリーアートについて、先生と生徒という旧来の枠組みよりフラットな関係の中で、「学ぶ」というよりも「創り出していく」という姿勢を身につけることができた。仲間との出会いも多く生まれた。また、会社員のスケジュールにも合っていた。

50代／女性 2006年マガジンコース、クリティカル・リーダーズ、2007年アート＋コミュニケーション(前・後期)、キュレーション・ベーシック(基礎)

受講時:フェンドマネージャー／現在:投資家、学生

MADの授業をとおして、アートのみならずカルチュラル・スタディーズや現代思想、哲学にも興味を持つようになりました。また、AITのイベントや旅行でアーティストやアートを話せる友達ができ、2008年は大学で美術史を学ぶ傍ら初めてインディペンデント・キュレーターとして展覧会制作を行いました。

20代／男性 2006年クリティカル・リーダーズ

受講時:無職／現在:キュレーター

異なる世代、職業をもつ人々が集まってアートについて真剣に意見を交わす貴重な場でした。東京にはこんなにもたくさん人がいるのに、案外混ざり合う機会が少ない。私が現在取り組んでいる「CAMP」というプロジェクトも、MADのように人が集い「議論する場」を作るという問題意識から出発しています。

60代／男性 2007年アート＋コミュニケーション(前・後期)

受講時:無職(美術館でのボランティア・ギャラリーガイド)／現在:無職(美術館でのボランティア・ギャラリーガイド)

アートについて「何でもみてやろう精神」でこのコースを受講しましたが、講義や講師、また一緒に受講した仲間も、いずれも刺激的で貴重なものでした。また、これまであまり縁のなかった「哲学」に、MADの講義をとおして興味を持ちました。

20代／男性 2007年キュレーション・ベーシック

受講時:アートフェア東京事務局スタッフ／現在:アートフェア東京事務局スタッフ

マーケットだけに限らずアート界全般への幅広い理解が必須と考え、MADを受講しました。話題になっているテーマや事象についてディスカッションした経験は、日々接するアートへの考え方を変える大きなきっかけとなりました。

20代／女性 2007年キュレーション・プラクティス

受講時:birdo flugas(ビルドフルーガス主宰)www.birdoflugas.com/／現在:birdo flugas(ビルドフルーガス主宰)www.birdoflugas.com

MADをとおし、小さな活動がどのように大きな枠組みとしてのアート界と関わり合うのか、アートシーンやマーケットの仕組みはどのようなものか、AITならではの切り口で学んだことを現在の活動に活かしています。

20代／女性 2007年、2008年マガジン

受講時:大学院生、キュレーター／現在:大学院生、キュレーター

ふだんは、アカデミックな研究と文献調査を行っていますが、MADは、リアルタイムのアート・マーケットやアート界の「表」と「裏」を知る貴重な機会となりました。また、講師や受講者同士との議論は刺激となり、自分とは違う視点や新しい知識を得られることは非常に魅力的でした。

MAD受講生のデータ

学生／学生以外の比率:学生 30%、学生以外 70%

年齢層:19才～82才まで(20代後半～30代の方が最も多い)